

平成 30 年度 相生市内在学の児童・生徒による人権作品の紹介

★人権作文の部 特選受賞者と作品



だいすきなあおちゃん

双葉小学校 1年 難波 杏樹

わたしには、5さいとしたのいもうとがいます。8がつに2さいになったばかりです。

さいきんできるようになったことがあります。ことばがすこしずつはなせるようになってきました。いろんなおうたがうたえるようになってきました。おえかきもだいすきです。すぐくいいしんぼうです。なんでもじぶんのものにしたがります。ままにおこられたら、すぐおおきなこえでなきます。なんでもわたしのまねがしたいみたいです。わたしのふくをきて、「どう？かわいい？」といいながら、くるくるまわります。おにんぎょうをだっこして、よしよししています。そんなあおちゃんのせんぶがかわいくてしかたがありません。ときにはわがまますぎてこまってしまいうこともあります。

そんなときには、あおちゃんのきもちをかんがえて、どうすればあおちゃんはおうれいかな、とかんがえてみます。それで、あおちゃんがにこにこして、「ねえね、すき。」と、ほっぺをくっつけてきたときは とてもうれいきもちで、むねが いっぱいになります。

9がつには、あたらしくおとうとがうまれてきます。おとうとがうまれてきたら、ままもあかちゃんのおせわでたいへんだとおもうので、わたしがあおちゃんのちいさいおkaaさんになりたいです。

特選受賞者 小学校

| 学校 | 学年 | 氏名 | 作品名 |
|-----|----|-------|-----------------|
| 双葉 | 1 | 難波杏樹 | だいすきなあおちゃん |
| 中央 | 2 | 稲葉柚奈 | ありがとう |
| 中央 | 3 | 宮内友彩 | ひきょうなことはゆるせないこと |
| 中央 | 4 | 松村尚樹 | ともにかがやいて |
| 若狭野 | 5 | 岡野陽菜乃 | 恩送り |
| 那波 | 6 | 鍛冶楓太 | おばあちゃんとポタン |

中学校・高等学校

| 学校 | 学年 | 氏名 | 作品名 |
|---------|----|-------|--------------|
| 双葉 | 1 | 矢倉圭恭 | ぼくの居場所 |
| 矢野川 | 1 | 奥田拓馬 | 人と人とのつながり |
| 那波 | 2 | 土居聖良 | 今、自分にできる事 |
| 矢野川 | 3 | 竹山美空 | 戦争は最大の差別 |
| 相生高 | 1 | 矢形実紗 | 差別・偏見の目に気づいて |
| 相生産(全)高 | 2 | 前東ことり | 障がい者と一緒働くこと |

ふれ愛コンサート

日時 12月16日(日)

14:30~16:00

場所 相生市文化会館

扶桑電通なぎさホール

(大ホール) 入場無料

出演 ちひろ(歌手)

内容 「明るいほうへ～金子みすゞの心とともに～」と題し、私たちが忘れていたものを思い

起こさせてくれる心温まるコンサートです。コンサートや作曲活動、ラジオ番組出演と幅広く活動しています。



ぼくの居場所

双葉中学校 一年 矢倉 圭恭

「ドスッ。」鈍い音と同時に、痛いというよりやっってしまったという思いの方が先によぎった。

ぼくは、夏休みに入ったばかりの野球の練習中に、バッティングマシンの暴投をよけきれず右手の中指と人差し指の二本を骨折してしまった。「ただ痛いだけで折れていませんよ」と病院に行く車の中で祈り続けたけれど、祈りは通じず全治二週間という最悪の診断を受けた。野球ができないだけでなく鉛筆も握れないので宿題もできない。ピアノも弾くことができない。こうして、不安と絶望しかない二週間を過ごすことになった。

週四回の野球の練習も行ってもやることがないのでつまらないだけだから休もうと思ったけど、母に行くように言われたので仕方なく行くことにした。ランニングだけチームのみならず、しかし、キャッチボールもバッティングもやっぱりできなかった。つまらない帰りたいと思った。ぼんやりキャッチボールを見ていたら受け損なったボールがぼくの方に転がってきた。左手で拾って投げにくかったけど投げ返した。すると受け取ったチームメイトがニコッと笑って「矢倉くありがとう。」とボールのお返しがきた。なんとも言えないムズムズとした気持ちだった。それからぼくは取り損なったボールやフールボールをひたすら取りに行った。その時、初めて気がついた。みんな練習をしているからボールを取りにいけないんだ。だから練習が終わったらみんな探して拾い集めていたんだということ。ぼくが小学生の頃に入っていた少年野球の監督がよく言っていた言葉がある。

「人が嫌がることやしんどいことをすすんでやりなさい。自然にできる人になりなさい。」という言葉だ。今、この言葉の意味をぼくは気づくのが遅かったけど理解できた。それから次の練習からフールボールやそれたボールを取に行く役に徹した。野球道具や荷物運びも進んでやった。ぼくの居場所を見つげるために。

やることもないから休もうと思った自分が恥ずかしいと思った。ケガをした自分には居場所もないし、ただじゃま者でしかないと思っていたからだ。

ケガをして気づいたことがある。それは、一週間が経ち、大好きな野球ができる喜びとこの世の中には役に立たない人なんて誰もいないということだ。ぼくはケガをして指が使えなかった。だけど、今は元に戻って動かすことができる。両方の立場を経験することができた。病気や事故で指を失くしてしまった人がいるかもしれない。もし、ぼくがケガをした時のように役に立たないからと下を向いている人がいるなら言いたい。どんな小さいことでも役に立つことがある。どんな些細なことでも誰かの役に立っている。ただ笑ってしてくれるだけで緊張した雰囲気も和らぐ。骨折していた時、チームメイトはぼくのカバンを黙って持ってくれた。ケガをして役立たずと思っていた自分に「大丈夫か。」と声をかけてくれた。

役に立たないと思っているのは自分。もし、この先チームメイトが同じ思いをしたらぼくはこう言う。「ここに居場所はあるから、大丈夫。」



★人権ポスターの部 特選受賞者と作品



矢野小1年 相原力翔



双葉小2年 藤田善



中央小5年 田崎菜々美



中央小6年 三好七清



若狭野小3年 三木夢太郎



双葉小4年 身野ほのか



那波小6年 矢野桃々奈



那波中1年 松本恋幸



双葉中1年 毛利暖



那波中2年 小坂希咲



矢野川中2年 岡野菜乃花



双葉中3年 南淵友里



矢野川中3年 西脇未空



矢野川中3年 堀ノ内光夏

人権標語の部 入選受賞者と作品

| | | | | | | | |
|-----------|------------|---------|---------|---------|-------|-------|--------|
| 花が咲く | その周りの人にも | 笑顔咲く | 相生小 | 5年 | 小林 美穂 | | |
| 認めよう | 違いは輝くオリジナル | 色とりどりで | みんなハッピー | 那波小 | 5年 | 青木 優歩 | |
| だいじょうぶ？ | その一言が支えの手 | | | 双葉小 | 5年 | 中田 るな | |
| けがをして | 気づいた | 人のあたたかさ | 次はぼくが | あたたためよう | 若狭野小 | 5年 | 小林 紗久 |
| やめようよ | あの子の笑顔 | うばうこと！ | | | 矢野小 | 5年 | 川本 理子 |
| 助け合い | 手と手をつないで | 笑顔の輪 | | | 青葉台小 | 5年 | 谷林 真帆 |
| 「なるほどな!!」 | ちがいをみとめて | 広がる世界 | | | 中央小 | 5年 | 山本 恵太 |
| 大丈夫？ | ただそれだけで | 救われる | | | 相生小 | 6年 | 和田 優里 |
| ふみだそう | いじめを止める | その一歩 | | | 那波小 | 6年 | 牧尾 拓海 |
| 伝えてほしいな | 君の気持ち | 聞いてほしいな | 私の気持ち | | 双葉小 | 6年 | 丸山 瑞誉 |
| 言葉をつなげよう | みんなの笑顔 | 次はあなたに | バトンをわたす | | 若狭野小 | 6年 | 伊原 ひなた |
| 声かけて | 君と僕の | 幸せ広がる | | | 矢野小 | 6年 | 相原 美南 |
| あなたの手 | さし出すだけで | 幸せに | | | 青葉台小 | 6年 | 岡田 琴葉 |
| 大丈夫！ | あなたの味方は | 私です | | | 中央小 | 6年 | 三浦 妃菜乃 |

| | | | | | | | |
|---------|----------|---------|--------|-------|---------|----|-------|
| なぜやるの？ | 自分はされたら | いやなのに | | | 那波中 | 1年 | 濱田 昂弥 |
| 思いやり | 言葉や行動で | 伝えよう | | | 双葉中 | 1年 | 松井 大和 |
| 広げよう | みんなの笑顔 | 自分から | | | 矢野川中 | 1年 | 吉田 麻央 |
| 見直そう | あなたの言葉と | あなたの心 | | | 那波中 | 2年 | 田中 逸人 |
| その言葉 | 大事な人にも | いえますか | | | 双葉中 | 2年 | 山田 大夢 |
| 踏み出して | 手をさしのべれば | 未来は変わる | | | 矢野川中 | 2年 | 竹内 里緒 |
| やめようよ | 見ているのに | 見ないふり | 勇気を出して | 手を貸そう | 那波中 | 3年 | 寺坂 彩沙 |
| 声かけよう | 相手の笑顔 | 見えるまで | | | 双葉中 | 3年 | 柴田 彩華 |
| 「だめだよ」と | 注意するのも | 思いやり | | | 矢野川中 | 3年 | 前坂 美来 |
| あいさつが | 心をつなぐ | パスワード | | | 相生高 | 1年 | 松岡 優太 |
| 人と違う | それがどうした | すてきじゃない | | | 相生産高(全) | 1年 | 船引 奏歩 |
| まえむいて | きみのみかたは | そこにいる | | | 相生高 | 2年 | 石塚 耀太 |
| はき出そう | ためこむ前に | その悩み | | | 相生高 | 2年 | 萬代 里菜 |
| いじめという | 言葉自体を | 無くしたい | | | 相生産高(全) | 2年 | 寺坂 嵐 |
| 必要ない | そんな人なんて | 1人もいない | | | 相生産高(全) | 3年 | 小林 真依 |
| ちょっとした | 軽い気持ちで | 傷つける | | | 相生産高(定) | 4年 | 井口 厳 |